

2021 新春トップインタビュー ゴルフ界の展望を聞く

“ファンの拡大”と“ゴルフの普及拡大に貢献”が使命です



一般社団法人 日本女子プロゴルフ協会 (JLPGA) 会長
小林 浩美 氏

——新型コロナウイルスによる影響で試合数が大幅に減少しましたが、2020年を振り返っていかがでしたか。

小林 新型コロナウイルス感染症は、人の命と健康にかかわる重大な問題ですので、2020年は本当に大変な一年でした。先が全く見えず、これまでの規定やルールが全く当てはまらないので、試合を行う時にはどのようにしたらよいのだろうから始まりました。当協会として、早い段階から感染予防対策を各運営会社さんと詰めていました。

JGA、JGTO、PGA、GT

PA、JLPGAのゴルフ5団体で、プロゴルフトーナメント運営の指針となる「国内プロゴルフトーナメントにおける新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」を作成しました。その中の、大会開催可否の5つの判断基準はJLPGAのものを採用していただきました。

例年ですと、女子ゴルフツアーは3月の「ダイキンオーキッドレディス」から開幕します。コロナ禍で政府の見解やさまざまな状況を鑑み当初は、無観客開催を決めていました。

しかし、主催者様と協議して、同月28日には大会中止の発表をいたしました。その後も大会中止が続き、試合数がどのぐらいなるか全く見込めない状況で非常事態宣言が発出され、生活も激変し、米国ツアーとやり取り等もしている中で、レギュラーツアー及び、ステップアップツアーの開催方式を2シーズンで一つに統合することを5月25日に発表しました。

今回ガイドラインを決めた時に一番大きかったのは、感染症専門医である東邦大学炭山理事長に大変ご尽力をいただき、場面に応じてアドバイスを都度頂けたことです。先生のアドバイスの基、各大会の主催様がPCR検査はじめ様々な対策を行っ

て下さり、ゴルフ場の皆様、運営会社様、大会関係者の皆様の相応な努力とご協力がありました。また、出場選手やキャディの皆様が、日頃からアドバイスを従って感染予防に励んでいました。特に女子の場合ですと、政府が6月19日にプロスポーツの開催を容認して、6月に最初にアース製菓様が「アース・モンダミンカップ」大会を開催して下さり、感染予防対策に沿って始めて下さいました。全体の約1/3の14大会も無事に開催できたのは皆様のおかげです。多くの皆様と選手、協会が一つになって動くことができました。

——試合の雰囲気、選手達の反応はいかがでしたか？

小林 まず、選手達は大会を開催していただけることをとても感謝し、喜び、生き生きプレーしていました。でも、ギャラリーの方々がいないのは、やっぱりとても寂しいです。それに静かです。感染予防対策で、ファンの皆様には会場での観戦が叶わず、大変申し訳なく思っています。2020年もたくさんさんの選手が活躍して、迫力あるショットや素晴らしいプレーがたくさん生まれて、これでギャラリーの方々がいらっしゃったら、どんなに沸いたんだろう？と、

毎週プレーを見るたびに思いました。

また、開催コースの支配人、グリーンキーパーともお話し、コロナ禍で大変なご苦労をいろいろとお聞きすることができました。女子の開催コースは毎年やってくださっているところがほとんどですが、異常気象でコース管理も毎年大変でした。ところが、2020年はコロナ禍でさらに大変だったにもかかわらず、どこかのコースも素晴らしい状態に仕上げていただき、とても感謝しています。また、各開催ゴルフ場様の感染対策のおかげで選手達は安心してプレーできました。通常とは違う動きながらも、これだけ選手が目覚ましいパフォーマンスを発揮できたのは、コースコンディションの素晴らしさと大会用セッティングに多大なご協力を頂戴できたことでもあります。コース管理課の皆さんが神経を張りながらやっていたいたおかげです。主催者様、当協会、ゴルフ場様などのチームワークで最後の大会まで無事にこられました。

——2021年に開催予定の東京五輪については？

小林 協会が行われることを前提に準備を進めています。私自身、リオに続き、五輪競技対策本部強化委員

会の副委員長を拝命し、とても楽しみにしています。地の利を生かせば、メダル獲得はできると確信します。

当協会では、「世界に勝つ」を目標に、選手強化も含めて7、8年をかけてツアー全体を強化してきました。4日間競技の増加、様々なバリエーションのコースセッティング、練習場の基準化、リランキング、ステップを3日間に変更、試合数の増加、世界ランキング対象ツアー、CSの生放送など、様々な改革をレギュラーもステップも同時にやってきました。その結果、平均スコアやショット力等、選手のパフォーマンス力が確実にUPしています。

これまで、当協会は主催者様やゴルフ場様と一緒にいろいろと取り組み、ツアー環境のさらなる向上と選手の力をより引き出すべく、注力してまいりました。選手の努力はもちろんですが、ステップからレギュラーに紐づけたツアー強化策で、競争が激化し選手層が厚くなり、とても良い形で選手全体が伸びてきています。東京開催のオリンピックですし、なにより国の代表となることは名誉です。自分の国で素晴らしプレーが出来るように、協会として、世界に通じる環境にできるだけ日々取り組

み、選手と協会が一体となって、メダル獲得に励みたいのです。

——JLPGAとして2021年の展望や戦略を教えてください。

小林 当協会は2013年から中期計画を立て、ビジョンを決めてきました。主にJLPGA全体のブランド強化、スポーツビジネスの基盤構築や確立です。トーナメント部門では「ツアー強化」が挙げられます。ツアーが活性化し、成長することがプロスポーツビジネスに直結すると考えます。現在、ツアー全体で改革を進めており、グローバルに協会も選手も活動を広げる中で、改革は待たなしです。コンプライアンスやCSR活動なども含めて、大事な時期です。昔の古い体制のままでは立ち行かなくなっているのが現実です。同時に、継続していくのが当然あります。主催者様から評価いただいている選手の「ホスピタリティ」は、その強化にもう20年来取り組んでいます。そして、公益事業を通して行っている「ファンの拡大」と「ファンへのゴルフの楽しさの普及」は協会の大きな使命です。

コロナ禍で大きく実現したのは、インターネット配信です。2020年は、多くの大会でネット配信を行

い、リアルタイムでそのままプレーの感動をお届けできました。特に将来のゴルフファンを作るべく、ネットに親和性の高い若年層にも訴求できたと思います。新しい取り組みであるネット配信から、ゴルフに関心を持つてくれる人が増えて、やってみようかな」と思ってもらえたら嬉しいです。

——日本ゴルフサミット会議のテーマに関してどう考えていますか。

小林 2020年は「統一テーマによるゴルフ活性化への取り組み」として4課題ありますが、当協会は「選手強化」と「イメーリアップ」に特に注力しています。ツアーで強い選手がたくさん活躍することで注目を集め、ゴルフの普及と拡大につながります。そして、イメーリアップと訴求にSNSの活用が挙げられます。Instagramを中心にリアルタイムの情報発信を動画も取り入れて頻繁に行っています。選手自身のSNS発信はもとより、相乗効果で当協会のオフィシャルInstagramのフォロワー数は11万人となりました。ただコロナ禍で厳しい状況ですので、今後も選手や多くの皆さんと一緒に協力して乗り越えていきたいです。